PART2　む・むず（基本編）

む・むず（＝「　・　ず」）

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	む							（四段型）
形	むず							型

問一　「いとどこそむつから<u>め</u>」の傍線部の終止形、ここでの活用形を答えよ。

問二　「さて鷹飼はではいかが<u>したまはむずる</u>。」の傍線部分を例にならって品詞分解せよ。

（例）

書き	し	文
カ行四段活用・連用形	助動詞「き」・連体形	名詞

【意味】＝「スイカかえて」

① **推量**（～だろう）
② **意志**（～よう）
③ **勧誘**（～ませんか）
④ **仮定**（～としたら）
⑤ **婉曲**（～ような）
⑥ **適当**（～するのがよい）

★〈意味の見分け方〉＝「　　　　」か「　　　　」に分ける。

●「　　　　」＝「仮定」・「婉曲」

（例）恋しから**む**ことの堪へがたく、…

●「　　　　」＝「推量」・「意志」・「勧誘・適当」

（例）「取りて参ら**ん**。」

この女をほかへ追いやら**む**とす。

★「文中」の「む」の意味

●～む＋**体言**→「　　　　　」

（例）恋しから**む**ことの堪へがたく、…

●～む＋助詞→「　　　　　」

（例）ただ一度に答（いら）へ**む**も、…

★「文末」の「む」の意味→文脈判断。目安として**主語**確認。

●**一**人称→「　　　　　」

（例）「我こそ死な**め**。」

●**二**人称→「　　　　　」

（例）（ホトトギスに向かって）「今こそ鳴か**め**」

●三人称→「　　　　」

（例）何人か迎へきこえ**む**。

第13講 PART2 確認問題

①「当たらんずる」を品詞ごとに区切ったものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 当た・らん・ずる　イ 当たら・ん・ず・る　ウ 当たら・んずる
エ 当たら・んず・る　オ 当たら・ん・ずる

②「男もすなる日記といふものを、女もしてみんとてするなり。」の傍線部の活用形として適切なものを、次の中から選べ。

ア 未然形　イ 連用形　ウ 終止形　エ 連体形　オ 已然形　カ 命令形

③「もろこしからのことばにて、長きことなど物語りするをわきより見たらむは、この国のことばにてこの国の人と物語りするに、違ひはなからむと思ふなめれど、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 意志　イ 推量　ウ 命令　エ 仮定　オ 勧誘

④「我が行ひを五つ、六つ重ねたらんほどに行ふ者ありけり。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 婉曲　イ 意志　ウ 尊敬　エ 打消　オ 存続

⑤　傍線部のうち、他と意味が異なるものを次の中から選べ。

ア　少納言よ、香炉峯（かうろほう）の雪いかならむ。

イ　逢ふことも涙にうかぶ我身には死なぬくすりも何にかはせむ

ウ　かのもとの国より、迎へに人々まうで来んず。

エ　たどたどしきを聞きつけたらむは、なに心地かせむ。

第13講　PART2　解答

問一　む・已然形

問二

サ行変格活用・連用形	ハ行四段活用・未然形	助動詞「むず」・連体形
し	たまは	むずる

第13講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

①「ん」＝「む」で「当たらむずる」。「むず」は「む」と「ず」に切らない（助動詞「ず」の上は未然形だが、「む」は未然形ではない）。「むずる」の「る」は、「る」の識別の復習。「る」の上の音がu段なので、上からの一語と考えられる。したがって、「むずる」で一語である（助動詞「むず」の連体形）。「当たら」と四段活用の未然形に接続しているので、「当たら」＋「むずる」である。よって、正解はウ。

② 直後にある「とて」は引用を示す。「『…。』と言って…」と口語訳できるので、終止形。よって、ウが正解。

③ 文中の「む」＝「仮定」か「婉曲」。下が体言ではないので「仮定」から考える。選択肢に「婉曲」がないことからも「仮定」と判断できる。よって、エが正解。

④「ん」＝「む」。文中で下に体言があるので、婉曲の意味。よって、正解はア。

⑤ アは「香炉峯の雪」（三人称）が主語なので推量。イは「我」（一人称）が主語なので意志。ウは「人々」（三人称）が主語なので推量。エは「心地」（三人称）が主語なので推量。よって、正解はイ。

〈解答〉

① ウ　② ウ　③ エ　④ ア　⑤ イ